

患者向医薬品ガイド

2023年4月作成

ウゴービ皮下注 0.25mg SD

ウゴービ皮下注 0.5mg SD

ウゴービ皮下注 1.0mg SD

ウゴービ皮下注 1.7mg SD

ウゴービ皮下注 2.4mg SD

【この薬は？】

販売名	ウゴービ 皮下注 0.25mg SD Wegovy Subcutaneous Injection 0.25mg SD	ウゴービ 皮下注 0.5mg SD Wegovy Subcutaneous Injection 0.5mg SD	ウゴービ 皮下注 1.0mg SD Wegovy Subcutaneous Injection 1.0mg SD	ウゴービ 皮下注 1.7mg SD Wegovy Subcutaneous Injection 1.7mg SD	ウゴービ 皮下注 2.4mg SD Wegovy Subcutaneous Injection 2.4mg SD
一般名	セマグルチド（遺伝子組換え） Semaglutide (Genetical Recombination)				
含有量	0.25mg 1筒（0.5mL） 中	0.5mg 1筒（0.5mL） 中	1.0mg 1筒（0.5mL） 中	1.7mg 1筒（0.75mL） 中	2.4mg 1筒（0.75mL） 中

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ 「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、持続性GLP-1受容体作動薬と呼ばれる注射薬で、週1回の注射で効果が持続するように製剤的な工夫をした注射薬です。
- ・この薬は、食欲を抑制することなどから、体重減少作用を示します。
- ・次の病気の人に処方されます。

肥満症

ただし、高血圧、脂質異常症又は2型糖尿病のいずれかを有し、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下に該当する場合に限る。

- BMIが27kg/m²以上であり、2つ以上の肥満に関連する健康障害を有する
- BMIが35kg/m²以上
- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者または家族の方が、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にこの薬に含まれる成分で過敏症を経験したことがある人
 - ・糖尿病性ケトアシドーシスの人、糖尿病性の昏睡状態の人または昏睡状態になりそうな人、1型糖尿病の人
 - ・2型糖尿病があり、重い感染症にかかっている人または手術などの緊急の場合
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・過去に膵炎（すいえん）にかかったことのある人
 - ・重い胃不全麻痺など重度の胃腸障害のある人
 - ・次のような、低血糖を起こしやすい人
 - ・脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人
 - ・栄養状態の悪い人、飢餓状態の人、食事が不規則な人、食事が十分に摂れていない人、衰弱している人
 - ・激しい筋肉運動をしている人
 - ・飲酒量の多い人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- この薬は血糖値を下げる作用がありますが、インスリンの代わりにはなりません。2型糖尿病の患者さんがこの薬を使用する前に、インスリン依存（インスリン注射をしなければならない状態）の程度の確認が行われます。インスリン依存状態（インスリン注射をしなければならない状態）の2型糖尿病の患者さんが使用した場合には急激な高血糖（体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える）や、糖尿病性ケトアシドーシス（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸）になったりすることがあります。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

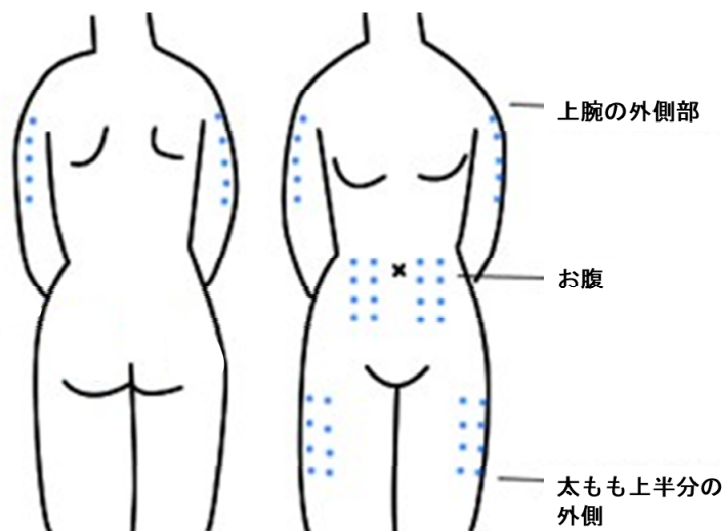
通常、成人には、0.25mg から投与を開始し、週1回皮下注射します。その後は4週間の間隔で、週1回 0.5mg、1.0mg、1.7mg および 2.4mg の順に増量し、以降は2.4mg を週1回皮下注射します。

胃腸障害などがあらわれ、忍容性が得られない（十分に耐えられない）場合は減量または増量が延期されることがあります。

●どのように使用するか？

- ・週1回、同じ曜日に使用します。
- ・必ずお薬に添付された取扱説明書を読んでください。
- ・皮下注射は、腹部、大腿（だいたい）、上腕に行います。注射箇所は毎回変更し、少なくとも前回の注射箇所から2～3cm離して注射してください。
- ・静脈内および筋肉内に注射しないでください。

注射部位の図



注射ごとに2～3cmずつ
注射場所をずらしていく

- ・使用前に、注入器が壊れていないことまたは異常がないこと、薬液が無色澄明で浮遊物がないことを確認してください。
- ・この薬はあらかじめ充填された薬液を、1回で全量使い切る注射剤です。
- ・この薬は他の薬との混合により、成分が分解するおそれがあるため、他の薬と混合しないでください。

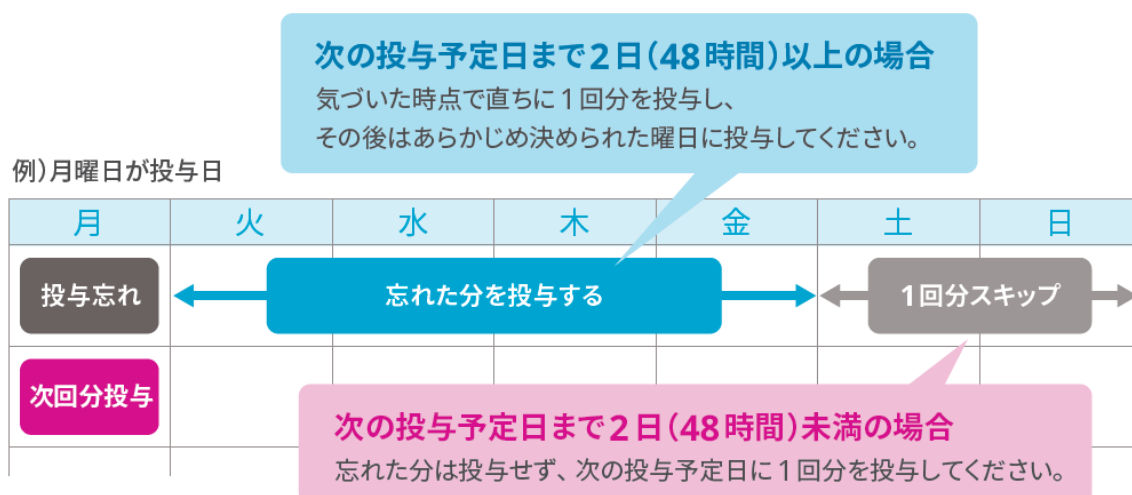
●使用し忘れた場合の対応

- ・この薬は週1回、同じ曜日に注射する製剤です。注射をし忘れた場合は、次に注射する日までの期間が2日間（48時間）以上であれば、気づいた時点でただちに注射し、その後はあらかじめ定めた曜日に注射してください。次

に注射する日までの期間が2日間（48時間）未満であればその時点では注射せずに、次のあらかじめ定めた曜日に注射してください。なお、週1回注射する曜日を変更する必要がある場合は、前回注射した日から少なくとも3日間（72時間）以上間隔を空けてください。

- ・決して2回分を一度に注射しないでください。

注射を忘れてしまった場合の対処



2回分を一度に投与するなど、忘れた分を埋め合わせないでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬の使用中は食事療法・運動療法を継続してください。定期的に体重、血糖、血圧、脂質などの検査が行われます。3～4ヵ月間使用しても改善傾向が認められない場合は、この薬の使用は中止されます。その後もこの薬の使用中は定期的に体重、血糖などの検査が行われ、十分な効果が得られない場合は、使用を中止することがあります。
- ・この薬は持続性製剤であり、使用を中止した後もお薬の作用が持続するので、副作用の発現に気をつけてください。異常を感じたら、ただちに医師または薬剤師に相談してください。
- ・急性膵炎（きゅうせいすいえん）（初期症状として、嘔吐（おうと）を伴う持続的なお腹の激しい痛みなど）の症状があらわれた場合は、使用を中止し速やかに医師の診断を受けてください。急性膵炎と診断された場合は、この薬の再使用はしません。
- ・胃腸障害があらわれた場合、急性膵炎の可能性を考慮し、必要に応じて画像検査などによる原因の精査が行われることがあります。
- ・下痢、嘔吐から脱水を続発し、急性腎障害（尿量が減る、むくみ、体がだるい）に至るおそれがあります。下痢、嘔吐がみとめられた場合には、適度な水分を補給し、症状が続く場合には医師に相談してください。

- ・この薬を注射中に甲状腺関連の症状（くびに触れると硬いしこりがあるなど）があらわれた場合には、専門医への受診が必要になることがあるため、医師に相談してください。
- ・胆石症、胆嚢炎（たんのうえん）、胆管炎または胆汁うっ滞性黄疸があらわれることがあります。腹痛などの腹部症状がみられた場合には、必要に応じて画像検査などによる原因の精査が行われることがあります。
- ・この薬を使用するにあたっては、注射法や低血糖症状への対処法、使用済みの製剤の安全な廃棄方法などについて、患者さんまたは家族の方は十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・低血糖症状があらわれることがあります。低血糖症状があらわれた場合は、通常は糖質を含む食品をとってください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。低血糖症状の一つとして意識消失をおこす可能性もありますので、インスリン製剤またはスルホニルウレア剤と併用する場合には、必ずご家族やまわりの方にも意識消失をおこす可能性があることを知らせてください。
- ・高所での作業や自動車の運転など、危険を伴う作業に従事しているときに低血糖症を起こすと事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。
- ・急激な血糖のコントロールに伴い、糖尿病性網膜症（視力の低下、視野が狭くなるなど）があらわれたり、悪化したりすることがあります。
- ・妊婦、妊娠している可能性がある人または2ヵ月以内に妊娠を予定する人は、この薬を使用せず、医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？


特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
急性膵炎 きゅうせいすいえん	吐き気、嘔吐、激しい上腹部の痛み、背中の痛み、お腹にあざができる、お腹が張る
胆嚢炎 たんのうえん	発熱、寒気、白目が黄色くなる、右上腹部の痛み、上腹部が張った感じ、嘔吐
胆管炎 たんかんえん	発熱、白目が黄色くなる、右上腹部の痛み、皮膚が黄色くなる
胆汁うっ滞性黄疸 たんじゅううったいせいおうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、発熱、寒気、体がかゆくなる
頭部	意識の低下
顔面	血の気が引く
眼	白目が黄色くなる
口や喉	吐き気、嘔吐
腹部	お腹がすく、激しい上腹部の痛み、お腹が張る、右上腹部の痛み、上腹部が張った感じ
背中	背中痛み
手・足	手足のふるえ
皮膚	お腹にあざができる、皮膚が黄色くなる
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

性状	無色～ほぼ無色の液
容器の形状	
識別 (ラベルの色)	ウゴービ皮下注 0.25mg SD: ライトグリーン ウゴービ皮下注 0.5mg SD: ディープピンク ウゴービ皮下注 1.0mg SD: ブラウン ウゴービ皮下注 1.7mg SD: クールブルー ウゴービ皮下注 2.4mg SD: チャコールグレー

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	セマグルチド（遺伝子組換え）
添加剤	リン酸水素二ナトリウム二水和物、塩化ナトリウム、水酸化ナトリウム、塩酸

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・本品の個装箱などにより光を避け、凍結を避けて冷蔵庫（2～8℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

- ・使用済みの本品については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

(<https://www.novonordisk.co.jp>)

ノボケア相談室（フリーダイヤル）

電話：0120-180363

受付：月曜日から金曜日まで（祝日・会社休日を除く）

営業時間外 0120-359516